

青少年育成県民会議の広報誌



せつぺとべ

鹿児島県青少年育成県民会議
発行/鹿児島市鴨池新町1番8号 県青少年会館内

TEL:099-257-8226
FAX:099-257-8227

URL:https://www.kagoshima-seisyounen.jp
E-mail:ikuseikaigi@hkg.odn.ne.jp



「せつぺとべ」とは精一杯がんばれの意味

令和6年度県青少年育成県民会議表彰

6個人・2団体が受賞 (詳細は3ページ)



令和6年6月6日(木): 県青少年会館

ふるさと 11月は「郷土に学び・育む青少年運動」の強調月間です。 ～家庭・学校・職場・地域 及び 関係機関・団体が一体となって～

主な内容

- ・若者への期待 (日置市子ども会育成連絡協議会 会長 松尾 四男さん) _____ p2
- ・あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーン _____ p2
- ・令和6年度 青少年育成県民会議総会 及び 県民会議表彰 _____ p3
- ・「第46回少年の主張鹿児島県大会」入賞者一覧 _____ p4
- ・かごしま子ども・若者総合相談センター _____ p4
- ・児童虐待防止推進月間 _____ p4
- ・「SDGs × 100人の村」ワークショップ _____ p5
- ・青少年会館の仲間たち (合唱団 うたおり、鹿児島大学学友会管弦楽団) _____ p5
- ・われらの団体・グループは今 (薩摩川内市、龍轟組、南種子町: 日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団) _____ p6
- ・私の地域活動 (枕崎市: 榊 辰弘さん) _____ p7
- ・わがまちの青少年育成 (伊佐市) _____ p8



若者への期待

薩摩の歴史は今も昔も人生鏡 ～薩摩の歴史を語り継ぎたい～

日置市子ども会育成連絡協議会 会長 **松尾 四男**

薩摩と言えば、加治屋町には西郷先生、大久保先生の偉人の誕生地があり、鹿児島が誇るべき三つの歴史があります。

一つは、関ヶ原の戦いでは百倍の敵の中央を突破した物凄い勇気で、堺までの苦しい中、耐え抜いた体力根性は見習いたいものです。

二つ目は、旧島津藩時代には、木曾、長良、揖斐川の木曾三川の大改修工事に八十数名の犠牲者を出しながら、平田鞆負氏、外薩摩義士二百名義士の美しい心と、強い責任感には、今も青少年が学ぶべきものがあります。

三つ目は、西郷隆盛先生、有馬伸七先生始め、平田鞆負先生等、多くの偉人を輩出しており、当時の主なる義士のお墓に関ヶ原戦跡踏破隊の少年隊員が祭文奉納を致します。その箇所も数十か所で隊員がそれぞれ祭文奏上し、夏休みの学ぶ体験活動として続いています。

毎年、関ヶ原戦跡踏破隊で指導者、活動隊員の募集等、真夏の実践的活動を関係者協力のもと65年間実施中です。尚、今日大東亜戦争より79年となり、日本の自由と平和は全国二百五十万戦死者の英霊のおかげで今日の日本があるという声も忘れてはならないと思います。

結びに、私は国を愛し、子どもは宝であり、人生いつまでも社会に貢献できるよう頑張りたいものです。

ふるさと ～春の「郷土に学び・育む青少年運動」～ 3月11日(月)～4月10日(水)

あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーンの開催

日時：令和6年3月17日(日)午後2時～午後3時

場所：中町ベルク通り(山形屋近く)

主催：鹿児島県・鹿児島県青少年育成県民会議

共催：鹿児島県青少年育成アドバイザー連絡協議会
鹿児島県青少年団体連絡協議会

協力：ガールスカウト鹿児島県連盟



あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーンは、毎年3月に春の「郷土に学び・育む青少年運動」の一環として、子供たちが大人に対してあいさつや声かけの実践を呼びかけることによって、多くの大人が青少年育成活動への参画意欲を高め、地域教育力の向上の一翼を担っていただくことを期待して実施していました。

コロナウィルス感染症拡大によりしばらくの間、開催できていませんでしたが、令和初の開催となりました。

青少年が健やかに育つには、親や大人の役割、責任が大きいことを深く認識し、子供の手本となることが大切です。特に、子供たちへのちょっとしたあいさつや声かけは、大人と子供の心のふれあいの第一歩であり、だれでも、いつでも、どこでも気軽に実践することが大切です。

今回は、ガールスカウト鹿児島県連盟の子どもたちの協力も得て、あいさつ実践のためのチラシ等を行き交う方々に手渡ししながら「あいさつ・声かけキャンペーンです。地域の子供たちへのあいさつや声かけをお願いします。」と伝えました。

令和6年度 鹿児島県青少年育成県民会議総会 県民会議表彰授賞式



総会の様子



県民会議副会長あいさつ

6月6日(木)、鹿児島県青少年育成県民会議総会を、市町村民会議や青少年団体、青少年育成団体等の関係者の出席のもと、県青少年会館で開催しました。

県民会議では、子供・若者の問題は地域社会、大人の問題であるという認識を基本として、子供・若者が社会的に自立した個人として成長していけるよう、関係者相互に緊密な連携を図り、「郷土(ふるさと)に学び・育む青少年運動」を積極的に推進しています。総会では、青少年を取り巻く社会環境への対応や青少年育成支援の重要性を出席者一同が再認識し、今後も、それぞれの立場において、より積極的に活動することを確認しました。

また、九州厚生局麻薬取締部捜査第一課捜査係長の常光祥平氏による講演会「薬物乱用の実態～大麻事犯の増加～」が行われました。薬物乱用の現状や薬物の入手方法、依存症、若者が薬物等を入手する背景など、薬物乱用の実態についての具体的な御講話は、今後の青少年育成活動を進めていく上で、大変参考になるものでした。

なお、地域で優れた活動を展開している青少年、青少年育成指導者及び青少年団体・グループ、青少年育成団体、青少年育成市町村民会議を表彰しております県民会議表彰の授賞式も、総会に先立って行いました。今回の受賞の個人及び団体は、青少年育成指導者6名、青少年育成団体2団体です。

受賞された皆様方に敬意を表するとともに、心よりお慶び申し上げます。

青少年育成県民会議表彰(6個人・2団体) 敬称略

川口 柳子(鹿児島市)

ガールスカウト鹿児島県第11団の発足時から運営に携わり40年間、スカウト育成・支援に務めて現在に至る。平成12年に日本連盟が認定するトレーナーの資格を取得し、県連盟の指導者の養成、研修を行い、若い指導者たちが県連盟や各団体で活動できるよう支援に務めている。また、平成22年から県連盟の副連盟長として、対外的な広報活動や他団体との連携などにも力を注いでいる。

新田 瑠璃子(霧島市)

平成元年から地域の女性リーダーとして、青少年育成活動に熱心に取り組み、地域内外の子供たちや子育て世代を見守り・支援している。「朝のあいさつ運動」「子どもたちに本を届ける運動」、子育て世代の居場所確保のため子育てサロンの開設など、青少年育成及び更生保護に多大な成果を上げ、今も公民館活動に携わりながら、幅広い世代との交流を通して、後継者育成に尽力している。

西 昌平(鹿児島市)

平成8年から日本ボーイスカウト鹿児島県連盟の活動に携わり現在に至る。その間、CS隊インストラクター、SS隊隊長、VS隊隊長として隊員たちを指導、支援に携わった。また、平成20年から県連盟理事・総務委員長、県連盟事務局次長などを歴任し、現在は県連盟理事・総務財務組拡委員長の要職にあり、県連盟内の教育に携わる指導者を主導する役割を果たしている。

左近充 円(伊佐市)

平成11年から20年以上、宇宙少年団「伊佐フォーマルハウト分団」の分団長を務め、宇宙をテーマにした各種事業を通して青少年の育成に取り組んでいる。毎月第3土曜日を中心に団員の子供たちを対象に、天体観測会を一年を通して実施するなど、星空の美しさや科学の不思議さ面白さなどを子供たちに伝えてきた。その真摯に取り組む姿勢は、青少年健全育成をはじめとして、社会教育への功績も顕著である。

湯川 久子(始良市)

昭和58年(社)青少年育成国民会議から青少年育成アドバイザーの資格を取得して以降、県青少年育成アドバイザー連絡協議会の会員・副会長として会の結成・組織運営に尽力している。主な活動として、青少年への声かけ・見守り活動、街頭キャンペーン等のほか、子育てサロン・子ども食堂の運営、薬物乱用防止活動等に取り組み、地域のリーダーとして、地域の子育て中の母親に様々な方面から働きかけている。

小山 岳富(南種子町)

平成23年から現在に至るまで、南種子町公民館青少年育成部連絡協議会副会長、会長を歴任し、長きにわたり青少年の育成・指導に取り組んでいる。その他、南種子町社会教育委員・青少年育成町民会議委員等を 現在も務め、様々な方面から青少年育成に貢献している。また、子ども会やスポーツ少年団の指導者としても活躍され、地域の子供たちを地域全体で育てる気風づくりに先頭に立って実践している。

青少年育成指導者の部

白金原子ども会育成会(始良市)

昭和27年4月に地域活動を通して、社会の中で生きていることを実感し、役割を果たすことによって、人としての成長や存在感を実感し、子どもたちの健全育成を図ることを目的に発足した。

「白金原子ども会」の活動支援を自治会や高齢者クラブ舞会と協働事業で年間を通じて展開し、青少年育成に対する意識の高揚や地域の子供たちの健全育成に尽力している。

阿久根市更生保護女性会(阿久根市)

昭和36年の設立時から阿久根市において、女性の立場から犯罪及び非行の防止に努め、犯罪者及び非行少年の更生に協力し、明るい社会の実現に寄与することを目的に、行政や関係機関団体と連携し、更生保護活動はもとより、青少年の健全育成・子育て支援活動を実践している団体である。活動を通して、青少年育成に対する意識の高揚や地域の子供たちの健全育成に尽力している。

青少年育成団体の部

令和6年度「第46回少年の主張鹿児島県大会」開催

鹿児島県及び青少年育成県民会議主催の令和6年度「第46回少年の主張鹿児島県大会」を8月4日(日)、県青少年会館大ホールで開催しました。今年度の大会には、37中学校から1,746点の応募があり、校内審査と県民会議の一次審査で選出された10名の皆さんが、主張発表を行いました。審査の結果、『世界は変えられる』の題名で発表した城西中学校3年濱田一華さんが最優秀賞に選ばれました。



最優秀賞 濱田一華さん



賞	氏名	題名	学校	学年
最優秀	はまだ いちか 濱田 一華	「世界は 変えられる」	鹿児島市立 城西中学校	3
優秀	はなよし かのん 花吉 奏穂	先入観は可能を 不可能にする	薩摩川内市立 川内南中学校	2
	やまさき まゆ 山崎 麻悠	天才とは何か	枕崎市立 枕崎中学校	3
優良	あわしま りん 阿波島 凛	二〇五〇年の海	鹿屋市立 高隈中学校	3
	おおつか らら 大塚 楽々	言葉に宿る 偉大な力	鹿児島大学教育 学部附属中学校	2

賞	氏名	題名	学校	学年
優良	おおやま りお 大山 倫央	弟は怪獣	鹿児島修学館 中学校	3
	かみの らいと 神野 徠斗	未来につなげる	南さつま市立 金峰学園	8
	かわはら ゆずき 川原 柚希	ありのまま の自分で	薩摩川内市立 平成中学校	3
	やまのうじ かほ 山之氏 海帆	周りへの愛	始良市立 加治木中学校	2
	わたり こほる 渡 心晴	小学三年生の私 へ伝えたいこと	南さつま市立 加世田中学校	3

◆最優秀賞：1名 優秀賞：2名 優良賞：7名 ※優秀賞・優良賞は五十音順です。

かごしま子ども・若者総合相談センター巡回相談会

誰かに聴いてほしいことがある。

電話相談 099-257-8230

メール相談 ホームページ内メール相談専用フォームをご利用ください。

面談相談 [異予約]県青少年会館2階 ※駐車場あります

相談日時 10:00-17:00 (火～日曜日)

かごしま子ども・若者総合相談センター

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町1-8 県青少年会館2階(ひきこもり地域支援センター)

かごしま子ども・若者総合相談センターでは、不登校、ひきこもり等、様々な悩みを抱える子どもや若者本人、その家族を対象とした相談会を県内各地で行っています。ひとりで抱え込まないで、まずはご相談ください。

10月以降の相談会の開催予定

- 令和6年 11月15日(金)・16日(土)……………奄美市
- 12月11日(水)……………薩摩川内市
- 令和7年 1月22日(水)……………南九州市
- 2月14日(金)・15日(土)……………西之表市

相談を希望される方は、当センターへ事前に申し込んでください。(TEL 099-257-8230) ※ホームページもあります。



11月は児童虐待防止推進月間～地域社会全体で取り組み、解決すべき問題です～

国や県では、平成16年度に児童虐待の防止等に関する法律が施行された11月を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動などの取り組みを実施することとしています。

児童虐待とは

- 身体的虐待** 殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる など
- 性的虐待** 子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など
- ネグレクト** 家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など
- 心理的虐待** 言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子供の前での夫婦喧嘩、家族に対する暴力(DV) など

虐待防止の5箇条

- 1 「おかしい」と感じたら迷わず連絡(通告) 通告は義務=権利
- 2 「しつけのつもり…」は言い訳 子どもの立場で判断
- 3 ひとりで抱え込まない あなたにできることから即実行
- 4 親の立場より子どもの立場 子どもの命が最優先
- 5 虐待はあなたの周りでも起こりうる 特別なことではない

189

児童虐待から子どもを守るために

(参考:厚生労働省HP)

「SDGs×100人の村」ワークショップの開催

日時：令和6年8月10日(土) 10:00～15:00 場所：県青少年会館



鹿児島県青少年育成県民会議では、(独)国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金助成活動」の助成を受け、青年海外協力隊鹿児島県OB会の協力のもと、「SDGs×100人の村」ワークショップを開催しました。

ワークショップには、県内の中・高校生17名が参加し、世界を100人の村に見立て、生活環境や教育、労働、貧困、環境問題等の世界情勢について理解を深め、途上国支援のあり方などを考えたほか、弁当の量で世界の食糧格差などを疑似体験しました。

また、貿易ゲームでは、貿易が世界の人々の暮らしにどのような影響を与えているかなど、世界の諸問題等について意見を出し合い共有しました。

参加した生徒の皆さんは、なぜ今“SDGs”が必要であるか、課題解決のためにはどのようなアクションを起こせば良いのかなど、楽しみながら様々なアイデアを出し合うことが出来ました。

青少年会館の仲間たち(青少年登録承認団体紹介)

青少年会館で青少年登録承認団体として、活動を続けている団体を紹介します。本会館の青少年団体の育成支援活動であり、現在18の団体が登録しています。本会館の利用を希望される青少年団体がありましたら、本会館2階事務所に御相談ください。(☎099-257-8226)



合唱団 うたおり

高校を卒業した後も合唱を続ける場所がほしい。そういった気持ちから誕生した合唱団です。

気軽に歌える合唱曲から、本格的な合唱、ポップスなどにも挑戦して、色々な合唱の楽しさを味わっていきたくと思っています。

また、他の合唱団とも交流をして鹿児島の合唱団のみならずからも刺激を受けながら合唱を盛り上げたいとも思っています。これからも仲間を増やしながら歌い続けていける合唱団を目指します。

興味を持たれた方はインスタを開設しているので、お気軽にお問い合わせください！ Instagram ID:utaori_chorus



鹿児島大学学友会管弦楽団

本楽団は、鹿児島大学の名誉と伝統を重んじ、音楽を通じて、人格の形成、高度な演奏技術を習得し、心身ともに健全な青年育成に資するとともに、管弦楽の振興発展に寄与することを目的に結成しました。

主な活動は、定期演奏会や県内の小学校への演奏旅行などです。鹿児島県内にある数少ないオーケストラの団体として、団員一同、音楽を楽しみ、そして、音楽やオーケストラの素晴らしさを沢山の方に知ってもらえるよう、一つ一つの行事に真摯に取り組んでいます。

われらの団体・グループは今

りゅうこうくみ
龍轟組
(薩摩川内市)



美しい里山と文化・伝統を未来へ

薩摩川内市祁答院町の轟^{とどろ}地区で活動している龍轟組は、平成17年に結成されました。旧轟^{とどろ}小学校の校章にあしらわれていた「龍」と轟^{とどろ}地区の「轟^{とどろ}」が名前の由来です。幼児から高校生まで幅広い年代の子どもたちと地域住民の交流を中心に、将来の地域を担う心豊かでたくましい青少年の育成を目指して活動しています。春～夏は工芸教室(七宝焼き体験)、蛍観察会、田植え体験、川遊び。秋には文化財の清掃、稲刈り体験、地区運動会。年末～正月には、餅つき、正月飾りやしめ縄づくり、鬼火焚き等々、活動は多彩です。

また、小・中学生を中心に地域の伝統芸能「種子島踊り」を継承する活動を行っています。夏休み頃になると、秋の披露に向けて練習が始まります。暑い夏の練習は大変ですが、地域の方々に教わりながら仲間と取り組む練習は子どもたちの絆を深め、精神鍛錬の場になっています。そして披露の場は地区の運動会。子どもたちは鮮やかな衣装に身を包み、見事な踊りを披露してくれます。

こうした活動で地域の文化・伝統が未来に継承され、子どもたちの郷土愛と豊かでたくましい精神が育まれます。美しい里山と自然に恵まれた轟地区。子どもたちは貴重な体験をたくさん積みながら、のびのびと成長しています。

日本宇宙少年団
南種子町宇宙科学分団
(南種子町)



感動こそ人生を変える (センス オブ ワンダー)

南種子町宇宙科学分団は、令和6年度に結成40周年を迎えます。「感動こそ人生を変える」(センス オブ ワンダー)の考えを基に、科学する心(サイエンス)を養い、何事にも挑戦(チャレンジ)し、友情の輪(フレンドシップ)を広げることにより、厳しい時代を生き抜く創造の力を醸成することを目指して青少年育成活動を行っています。

今年度は、町内の小学生から高校生までの計96名で活動をスタートしました。毎月1回の定例活動では、科学実験や天体観測、黒糖づくり体験など子どもたちの好奇心をくすぐる幅広い内容の活動を実施しています。

毎年夏休み期間中に種子島と屋久島を舞台にして行う「種子島コスミックスクール」では、全国から参加者を募集し、地元の児童生徒を含めて約90名の子どもたちが、7泊8日の集団生活の中で自然体験や施設見学などを通して交流を深めています。

また、令和6年8月には、結成40周年記念事業としてサマーキャンプ韓国を実施するなど、メモリアルイヤーに相応しい特別な活動も行われています。

今後も様々な体験活動を通して、次世代の青少年リーダーを育成するとともに、若い力で南種子町の活性化に貢献していきたいです。



枕崎市
青少年育成コーディネーター
(社会教育指導員)
榊 辰弘 さん

私の地域活動

子供とは、つかず離れずの距離感が大事

枕崎市は、全国有数の港町であり、古来の伝統と最新技術で製造される生産量日本一の「枕崎鯉節」を始め、「枕崎茶」や「電照菊」の生産も盛んです。また、全国でも数少ない三尺玉の花火が打ち上げられる「さつま黒潮きばらん海『枕崎港まつり』」は、毎年10万人近い観客の中、盛大に開催されています。今回は、枕崎市で社会教育指導員や青少年育成コーディネーターを務めておられる榊辰弘さんの活動を御紹介いたします。

枕崎市の青少年指導委員

枕崎市内には全部で73の自治公民館があり、令和6年度はこのうち61の公民館に子ども会育成会組織があります。この61の公民館から1人ずつ選出された青少年指導委員を、小学校区をもとにして計11の班に分け、班毎に年間7回の夜間の巡回補導をお願いしています。

補導活動後、巡回時の様子や子供たちの通学路の様子、かねてから気になっていることなどを補導日誌に記録させ、青少年育成センターに提出してもらっています。青少年育成センターではそれらの情報をもとに、センター職員で処理を行ったり、市や県の関係機関に処理を依頼したりしています。



公園や隣接する駐車場の浄化活動

「青少年指導委員の存在」が大きい

榊さんは枕崎市内の中学校を定年退職後、枕崎市青少年育成センターに勤務され、それ以来、青少年育成コーディネーターの仕事に携わっているそうです。もともと中学校では生徒指導関係で生徒たちと接してきたので、教職生活の延長線上の活動として取り組みやすかったということです。

現職時代に学校と地域の連携の大切さを痛感していただけに、特にこのような青少年指導委員のような地域の方々の学校への関わり方を重要視し、枕崎市の青少年問題が落ち着いているのは、この青少年指導委員の方々の存在が大きいと語っておられました。

ある日の補導日誌

この職に就いて3年目に、大雨の後の日に「通学路に木が倒れかかっているののでどうにかして下さい」という補導日誌への記載があり、市の建設課に処理をお願いしました。その際に、「いろんな処理のお願いばかりで申し訳ないです」と言ったところ、建設課の職員から「いや、かえって自分たちが市内を見て回らないといけないのに、こういった地域からの情報はとてもありがたいです。いつでもどうぞ」との返事をもらいました。

また、年7回の巡回補導終了時のミーティングで「私、このパトロールは楽しみでした。いろいろありがとうございました」と感謝の言葉を言われましたと補導日誌に記載されていました。この2点は補導活動をする中で、とても元気をもらいました。



青少年指導委員の補導日誌



小学校の校門近くの交差点での下校指導

これから青少年育成活動に携わる人への一言

若いときは「周りに相談することが情けない、弱いと見られそうで、一人で飛び込んでいくことが良い」という考えで、無謀なこともやりがちですが、複数の指導者で連携を取り、子供たちに接する方が良いと考えます。一人で飛び込んで、証拠がないからと大変なことになったり、一人で悩んでドツポにはまっていったりすることもあります。若い人たちの役目、高齢の人たちの役目、それぞれの立場でいろんな知恵が集まり良い解決策が出てくるものと思います。

わがまちの青少年育成

地域ネットワークで青少年育成 ～家庭、地域、学校の応援隊が青少年育成活動を牽引～



伊佐市は、県本土最北の地で、山々に囲まれた盆地を中心に広大な水田が広がり、のどかで開放感のある風景が印象的なまち。伊佐米、焼酎、曾木の滝、菱刈金山、忠元桜など、魅力と恵みがいっぱいのまち。笑顔が、希望が、子どもの声があふれる「子育てにやさしい日本一のまち」を目指しています。



市民総ぐるみで取り組むあいさつ運動

家庭・地域・学校から、あいさつの声が響き渡る、市民総ぐるみの「伊佐さわやかあいさつ運動」を展開しています。学校応援の方々、登校する子どもたちを、校門前で出迎えます。愛情あふれる声かけに、子どもたちは、生きる力、地域への愛着、地域との関わりなどを育んでいきます。

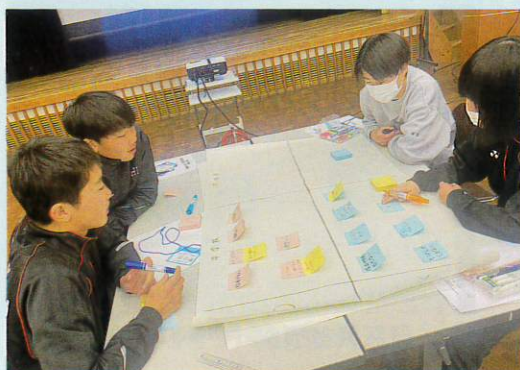
「さわやかあいさつ運動推進大会」で募集する標語には、子どもたちがまっすぐに生き生きと輝き、地域・家族への愛情あふれる作品が生み出されています。

令和5年優秀作品「あいさつと おこめでかがやく いさのまち」

校区コミュニティが企画するふるさと学寮

校区コミュニティでは、学校支援活動として、地域住民の知恵や技術の伝承、高齢者と児童生徒のふれあい事業、学校の課題など、地域ぐるみで取り組んでいます。

子どもたちの学びあう場として、家庭を離れ、学校と宿泊先で生活する、二泊三日のふるさと学寮も実施しています。地域の大人と協力、自己の力を試しながら、感謝の心や協調の精神、思いやりの心を学んでいます。



次世代を担うジュニア・リーダー研修

「自分の中学校」と「伊佐市」についてをテーマに、生徒会リーダー研修を実施しました。2校(大口中央中・菱刈中)の生徒たちは、「一人ひとりの個性に応じた行事への取組み」「思いやりとあいさつのできる学校」など、生徒会活動の魅力を発信しました。また、市の課題「空き家対策」「伊佐市の魅力発信のあり方」など、対応策を練るための意見を共有しました。人の話を遮ることや否定をせず、共感を持ち、周りの意見を尊重することが、リーダーとしての第一歩であるということ学び合いました。

毎月第3土曜日は
「青少年育成の日」



地域活動と一緒に
参加しましょう。

毎月第3日曜日は
「家庭の日」



家族を互いに
思いやりましょう。

毎月19日は
「育児の日」



子育てを地域で応援
しましょう。